

年頭初感 ～新年のごあいさつ～



全国B.M.C. 会長
菅野 俊郎 氏(かんの としろう)

あけましておめでとうございます。
皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。
平素よりB.M.C.の活動に多大なるご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が想像以上に長期化する中、原材料の高騰、原油高、急速な円安など、我々を取り巻く環境は非常に厳しい状況です。全国旅行支援、訪日観光の再開、行動規制の緩和など、明るい話題はあるものの、食やサービスの多様化は進み、よりいっそう変化に対応する力が求められる時代になってきております。慢性的な人員不足であるサービス現場では、戦力になるスタッフを確保できず、労働条件の悪化、サービスの低下という問題を抱えながら1日をなんとか終えることが精一杯、というのが現状ではないでしょうか。飲食業界の深刻な問題であります。

これらの問題に対し、企業によってはAI化やロボットの導入を始めていますが、肝心の接客サービスという点では、やはり「人」ではないかと思えます。

一昨年HRSで実施された、「ホテル会社で働く女性による座談会」にお招きいただき、興味深く拝見しました。様々なホテル、異なる部署で働く6名の女性の方々が一堂に会し、「働きやすい職場」「コミュニケーションの取り方」「日頃大切にしていること」など、活発に意見交換がなされて、リアルな声を聞くことができた貴重な時間でした。ひと昔前の宴会サービスは、男性の職場と言われておりましたが、現在では婚礼や一般宴会で女性インチャージが当たり前の時代。この座談会で交わされた意見の多くがとても参考になり、一人でも多くの方に聞いていただきたい内容でした。

また、コロナ禍でリモート会議やオンラインでの打合せやセミナー等が盛んになっていました。そのような社会情勢の中、対面での実施に意義があるとして、感染対策に努めた会場（赤坂エクセルホテル東急）で各自が感染予防に努めたうえでティータイムを設けられたと伺いました。参加の皆様の笑顔や和やかな雰囲気は、対面でコミュニケーションを取る大切さ、人と人とのふれ合いが紡ぎ出す良い空気感など、まさに我々の生業である対面接客の価値を再認識した時間でもありました。

これまでのHRSとB.M.C.の関わりを示す例として、レストランサービス技能検定やテーブルマナー講師認定試験は、我々サービス従事者が目標とする資格で、私共の協会(B.M.C.)でも多くの会員の皆様が資格を取得して活躍の幅を広げていることが挙げられます。

各自の挑戦と、自己啓発を支援する会社の姿勢は、次世代を担う若手の育成にも繋がることでしょう。

全国B.M.C.では、コロナ禍の影響もあり2019年以来活動を控えておりましたが、今年は様々なことに取り組む所存です。その一つとして、関連団体とのサービスに関するセミナー等の共催を考えております。

特に、貴協会とは長きにわたりF&Bに携わる団体としてお付き合いをさせていただいてまいりました。サービスの楽しさや魅力、技術、知識など、双方の得意とする分野を多くの皆様に伝えることにより、業界の発展、人材育成に少しでもお役に立てれば嬉しく存じます。

結びに、HRSの益々のご発展と会員の皆様の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。本年も何卒よろしくお願いたします。

